

1 指定校・指定校群 （ 坂出市立坂出小学校 ）

2 実施の内容

令和5年度の振り返りや改善点などを踏まえ、今年度より（1）学習支援、（2）心理面での支援、（3）児童理解の3つの視点から以下のようにKSRを運営した。

（1） 学習支援

① 教室の変更

昨年度KSR担当が1人で複数の教室を行き来することが難しかったという振り返りから、計3部屋だったところを、計2部屋に変更した。3階KSR教室を2部屋から1部屋にし、場所も中央階段横に変更した。部屋数は1部屋に減ったが、教室の広さは倍以上に増えており、児童がのびのびと活動できるようになった。3階教室は4、5、6年教室の中心部に位置しており、KSRの児童がそれぞれ自分の教室にアクセスしやすい場所にある。また、様々な学年の児童がKSRの児童に会いに来やすく、人とのコミュニケーションや関わりをもてるような環境となっている。

② 「みんなの時間」の設定

児童と話し合い、毎日4時間目を「みんなの時間」と位置付け、KSRの児童全員で様々な活動を企画し、取り組む時間とした。基本的に自分たちで企画し、それに向けて練習や話し合いを進めた。例えば、「サツマイモを育ててサツマイモパーティーを開く。」「ピタゴラスイッチを作り、校長先生に遊んでもらう。」「自分たちでルールを決めて紙飛行機大会をする。」など、様々な企画を行った。このように自分たちで企画を考え、みんなで同じ目標に向けて協働して活動する時間を設定することで、一体感や自己肯定感の向上、他者との人間関係調整力の育成につながると考えている。

③ ICT機器によるオンライン授業

ICT機器の環境を整え、We b e xを活用しオンライン授業を配信できるようにした。加えて、ロイロノートのメッセージ機能を使い、学級の様子や授業の板書、連絡帳等を送り、KSR教室から出なくても学級の様子が確認でき、児童が安心感を得られるようにした。また、運動会練習や全校集会など、体育館からオンライン配信を行ったことで、別室から参加することができた。

（2） 心理面での支援

① 学習の足跡

教室の南側の黒板を「学習の足跡コーナー」とし、その日にあった活動や思い出を写真に撮ってリアルタイムで掲示するようにした。（＜図1＞）自分たちが写真に写っていることで、グループの一員であるということを意識させたいと考えた。また、来校した保護者にもKSRの活動の内容を紹介したり、学校での子どもの楽しそうな顔を見せたりすることで、保護者に安心感を与えることができた。



＜図1＞黒板に掲示している学習の足跡

② 関係機関との連携

月に1回程度、SCがKSRに訪れ児童と個別面談を行った。教員には相談できないことや現在の思いを聞いて受け止めてもらうことで、児童に対する支援のアセスメントや支援方針の見直しに役立っている。また、6年生に対しては中学校進学への不安を取り除けるよう、中学校の支援センターの様子を写真で見せたり、どのような活動をしているのかについて説明を行ったりしている。また、SSWと連携し、学校と共に児童や保護者の支援を行っている。

(3) 児童理解

① 日々の記録の活用

KSRでは様々な教員が児童に関わっている。また、児童の学年も多岐にわたっているため、児童一人一人の学習内容が異なる。そこで、日々の学習内容を教員全体で共有するために、記録ノートを作成し、学習内容を記録するようにした。同時に児童の学習状況を複数の目で見ること、称賛するきっかけにした。また、担任との連携を強めるために個々の記録ノートを作成し、児童の様子や発言、思いなどを記録することで、児童の情報を担任に伝えられるようにした。

② 保護者との連携

保護者との連携のためにKSR連絡帳を作成している。児童がその日どんな学習をしたのか、学級へ行けたかどうかなどが分かるようにしている。また、月に1回程度、KSR便りを作成・配布しており、KSRでの活動の様子や児童の成長について保護者に周知している（＜図2＞）。



＜図2＞KSR便り

3 成果

(1) 校内サポートルームにおける児童の様子

- ・ KSR担当教員が常に教室にいることにより、児童への関わり方に一貫性をもって対応できた。また、児童だけでなく保護者との信頼関係も生まれ、支援方針を一緒に考えたり家庭での協力を仰いだりできた。
- ・ 1階と3階にKSR教室を設置したことにより、過ごす部屋を児童が自己決定できるようになった。誰にも見られずに過ごすことができる1階教室と、自分のクラスに近く、様々な友達とコミュニケーションを取りやすい3階教室を、その日の体調や気分によって使い分けることができるようになった。また、このことが児童の心理状態を把握することにもつながった。
- ・ 「みんなの時間」を設定したことで、異学年の交流活動が増えた。自分たちでやりたいことを出し合い、友達に意見を主張するという経験が生まれたことにより、他者とのように折り合いをつけていけばよいのかを考え、実践するきっかけとなった。また、活動を通してお互いの思いを理解していく中で、他者がどのように感じるのかを考えて行動したり、声を掛けたりできるようになってきている。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

- ・ いつでもオンライン授業に参加できるよう環境を整えたことで、授業に参加できたという達成感を味わうことのできる児童が増えた。保護者から帰宅後に、授業に参加できたことを嬉しそうな顔で話してくれたという声も聞かれた。学習についていけるのかと強い不安を抱えている保護者にとっても、オンラインで授業を受けられたということに安心感を覚えている様子であった。
- ・ KSRだよりを発行したことで、KSRでの児童の様子を気軽に伝えられるようになった。保護者にとっては、家庭で学校のことを話題にするきっかけにもなったようである。また、毎日の担任との記録ノートのやり取りを行ったことにより、児童に対する対応、支援について共通理解を図ることができた。さらに、担任とKSR担当とで児童の見取りや意見交換を活発に行うことができ、より良い支援につなげることができた。

(3) 総括

KSRでの活動を経て、所属学級へ戻って活動に参加できるようになった児童もいる。KSRでのさまざまな活動が、確実に児童の困り感や保護者の不安を緩和していると実感している。しかし、家庭訪問を定期的に行い、面談を行っているが、未だKSRへ登校できていない児童もいる。SSWやSC等とも連携しながら、その家庭に対しても働きかけを工夫していかなければならない。今年度の成果をもとに、来年度も引き続き児童が安心して過ごせるKSRの運営に取り組んでいきたい。